

基本情報



【年 齢】
39歳
【出身地】
大阪府南河内郡河南町
【転出元】
大阪府南河内郡河南町
【前 職】
国立大学職員
【活動時期】
R3.6～

協力隊に応募したきっかけ

私は米国の大学でアジア地域研究を修め、30代でアジアと中米の大学院で新興国や発展途上国における環境問題と高齢化社会の知見を深めてきたのですが、その後日本に戻って人口問題まわりで国際機関や官公庁、学識者や国会議員の方々の側で政策形成に関わるお仕事をさせてもらい、ふと日本の少子高齢化現象は世界でも珍しい先端事例であり、農林水産業が人口政策の根幹であって来たことから、今日の日本の限界集落に身を置き、それらが抱えている問題や課題について自分なりに地域のニーズを知りながらどういった取組みが現実的な打開の糸口になりえるのかな？という疑問点から畑違いの分野ではありますが応募に踏み切りました。

今後の抱負・任期後の目標

小さな限界集落内にも同じ町内にもグループに住み分け、そして昔から独特の濃い人間関係からシナジーに至らないケースが点在している。地域おこしは誰の何の為なのか、主体性や当事者意識形成は支援しうなのか、地域おこし協力隊制度事態の集落内認知度やイメージ改善を後半残っている任務期間でしなければいけないと思っています。任期後は、語学力（英語・サンスクリット語・アラビア語）と国際経験を観光や教育事業に活かしながら、畑から食卓に至るまでの有機的な循環を生み出す安全で持続可能な農業コミュニティの形成と存続を支援する活動を続けていきたいと考えています。

活動内容

●地元野菜販促活動

宿坊直納、商店卸売、宿坊マルシェ、報恩高野市、高野町観光文化センターのiKOYA Marche、ベジタリアン&ヴィーガンレストランの店先で季節の朝採り野菜の販売を行い、高野山地区内の住民に対して富貴・筒香野菜のPR活動をしました。



●農業従事事例

地域特産の茗荷畑の手入れから出荷作業に地域の農業を牽引されてきた農業委員さん達につかせてもらって日本の食卓の基本的な野菜（大根、白菜、キャベツ、人参等）の試験的栽培を体験し、地域の気候風土や郷土料理の探究をさせてもらう。



●観光・教育・国際化に農業のメインストリーム化

隊員活動の中で生まれた疑問「どうして農業が振るわないのか」には縦割化制度内に捉えられ閉じ込められたが故、抜け出せなくなってしまっている。今一度あらゆる分野における農業のプレゼンスを捉えなおす町内で隊員による農業のメインストリーム業務をあらゆる分野でやっていきたい。



連絡先